

アークフラッシュされた全国48箇所の老人施設は8年間インフルエンザの発症が報告されておられません。

< * > <http://www.arc-flash.co.jp> アークフラッシュNEWSをダウンロードによりご覧頂けます

<<全面勝訴>>

4年間に渡り、元代理店幹事会社チャンスイットに訴えられていたアークフラッシュの無効性事件は、裁判所が訴えを全部棄却し、弊社の全面勝訴となりました。裁判所の判断は、原告が訴えていたアークフラッシュの性能、スプレーガンの機能性、細菌類に対しての各々の試験結果などが全て不正であるので、この事業に掛けた金銭を返却しろというものでしたが、全ての性能、機能、書類に不正は無いとの裁判所の判断がなされました。

私は、アークフラッシュの性能を信じ、和解斡旋も蹴って真実を明らかにしたいと思いました。証拠を提出して下さった皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。
笹川

ミネソタ州ミネアポリス 当地に本社を置くモルトオミール社の朝食用シリアルを食べた少なくとも14州の23人が体調を崩し、同社製品から検出されたものと同じサルモネラ菌に感染していたことが判明した。米食品医薬品局（FDA）が12日明らかにした。モルトオミール社は5日、定期検査でサルモネラ菌が検出されたシリアル2製品の自主回収に乗り出した。製品は同州ノースフィールド工場で過去1年間に生産されたもの。疾病対策予防センター（CDC）によると、感染者のうち3人は入院したが、死者は報告されていない。サルモネラ菌の感染症状は嘔吐や下痢、発熱などで、抵抗力や免疫力が弱っている場合は死に至る恐れもある。FDAは、モルトオミール社のシリアルを食べた後にこうした症状が出た場合は保健当局に通報し、自主回収の対象となったシリアルが手元にある場合は捨てるよう呼びかけている。

南米ブラジルのリオデジャネイロ州当局によると、同州を中心としたデング熱の流行で、今年に入ってから感染者が5万7000人を超え、死者は67人に達した。病院ではベッド数が不足するなどの事態となっている。同州保健当局が3日発表したところによると、死者の半数近くは13歳未満の子ども。感染者5万7010人のうち、重症型の病態であるデング出血熱の患者が513人を占めるという。地元紙がマイア・リオデジャネイロ市長の話として伝えたところによると、同市の病院には市外からも患者が殺到し、受け入れが追いつかない状態。同紙によれば、病院での待ち時間は平均8.28時間にも及ぶという。州保健当局は、国内各地の小児科医に応援を要請した。また、連邦当局は今

週、保健当局職員や軍要員 2000人による緊急対策に着手。住民の家庭を訪問して、デング熱を媒介する蚊の生息地を知らせるなどの対応を進めている。米疾病対策センター (CDC)によると、デング熱の感染者は世界で年間 1000万人に上ると推定される。ワクチンなどはなく、蚊に刺されないようにすることが唯一の予防法。デング出血熱は死亡率が高いが、適切な治療をすれば致死率は 1%以下に抑えられるという

神戸市立医療センター中央市民病院 (同市中央区)は 11日、昨年 9月から先月、入院患者計 19人が耐性緑膿菌(じょくのう)菌に感染し、このうち末期がん患者ら 60~70代の男女 6人が死亡したと発表した。院内感染とみられる。現段階では死亡との因果関係はないとしているが、感染症の専門家による「院内感染外部調査委員会」を設置し、感染ルートや死亡との関係などを調べる。病院によると、昨年 9月、入院患者 13人が耐性緑膿菌に感染していることが発覚。患者の隔離など対策をとったが、12月と今年 1、3にさらに計 6人の感染が判明した。耐性緑膿菌には一部の抗生物質が効かない。今回検出したのは国内では珍しい型で、病院は国立感染症研究所に検体の検査を依頼している

韓国当局は 21日、鳥インフルエンザへの対応の一環で、計 530万羽の家禽(かきん)の処分を計画していることを明らかにした。韓国では過去 3週間で 17件の鳥インフルエンザ感染が確認されており、今回の処分は過去最大の規模となる。高病原性の「H5N1型」鳥インフルエンザの感染が最初に確認された 4月以降、ニワトリとカモ 486万羽がすでに処分されている。同国農林省は、予防措置として全国のカモ飼育場 260カ所全部で調査を開始し、検疫作業も引き続き行うとしている。最も被害の深刻な地域には、家禽の処分を支援するために兵士約 360人が派遣された。韓国では、初めて鳥インフルエンザが発生した 2003年後半、2004年前半には、計 529万羽の家禽を処分した。

*** 発行責任者 株式会社アークフラッシュ本部**
笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 sasagawa@arc-flash.co.jp

過去のアークフラッシュNEWS はホームページよりご覧になれます。